# 令和９年産

# 仙南麦作情報（第1号）

令和８年11月4日　発行
宮城県大河原農業改良普及センター
TEL：0224-53-3496
Fax：0224-53-3138
E-mail：oknkt@pref.miyagi.lg.jp

## １　排水対策

●明きょ

溝の幅や深さは 20～30cm 程度とし、必ず排水溝につなげるようにしましょう。

ほ場内にも 5～10m 間隔で明きょを掘って排水を促しましょう。

●補助暗きょ

通水孔の深さは 30～40cm になるようにしましょう。

間隔は 2～3m で本暗渠と交差させるように組み合わせて施工しましょう。

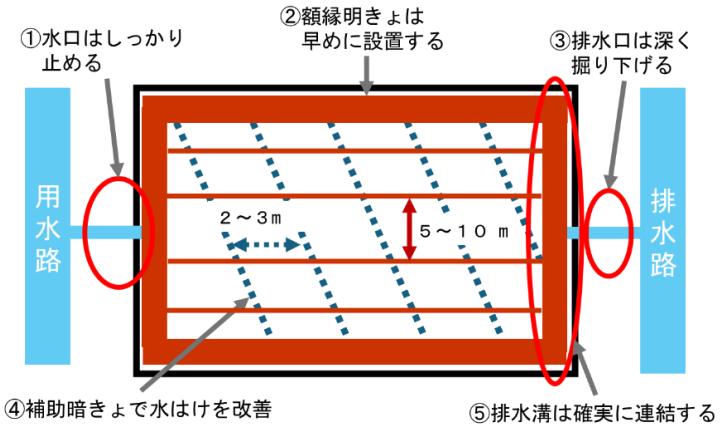



図１ 排水対策のポイント

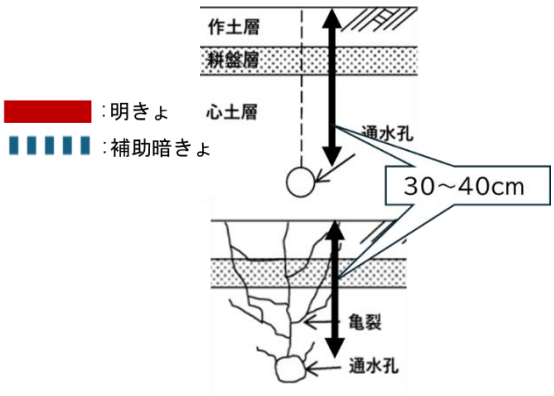



図2 補助暗きょの模式図
（上）弾丸暗きょ（下）心土破砕

## ２　砕土

砕土率は出芽率や除草剤の効果に影響します。2cm以上の土塊が目立つ場合は、ゆっくり耕起して砕土率　70%以上を確保しましょう。粘土質が強いほ場では、砕土率を高くしすぎると、降雨の後に土壌がクラスト化して出芽が阻害される恐れがあるので注意してください。

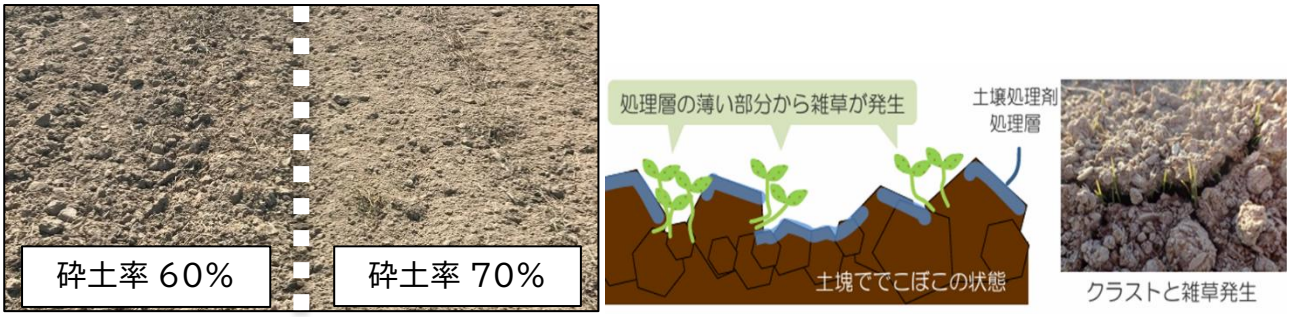



図３ 砕土率の目安および砕土率が除草剤効果に与える影響
（みやぎの麦類・大豆栽培技術指導指針から引用）

## 3 土づくり

**酸度矯正**：麦類は、微酸性～中性の土壌酸度を好みます（大麦：pH 6.1～7.0、小麦：pH 5.6～6.5）。定期的に土壌診断を行い、土壌酸度を調整してください。

**地力増進**：毎年堆肥等を施用し地力の維持に努めてください。稲わらや籾殻が主体の堆肥は2t/10a 以内、牛ふん堆肥は 1t/10a 以内、豚ぷん堆肥は 500kg/10a 以内を目安に施用してください。

## 4 基肥

施用量の目安は 10a 当たり、窒素：8～10kg、リン酸：8～10kg、カリ：10kg です。

基肥の増量による生育促進効果は低いので、播種が遅れた場合も施用量を増やさず、追肥で生育量を調整してください。

## 5 播種

大豆の収穫後に播種する場合は、早急に播種してください。標準播種量はドリル播きで 8～10kg/10a です。播種遅れによる苗立ち数の減少が懸念される場合は、苗立ち数を確保するため、12kg/10a を上限に播種量を増やしてください。

播種深度はドリル播きで 3cm 程度としてください。播種作業の始めに数か所種子を掘り出して、最適な深度に播種されているかを確認するようにしましょう。

## 6 麦踏み（踏圧）

麦踏みは耐寒性の強化や、徒長・早立ちの防止効果がありますが、実施時の条件によっては麦に悪影響を及ぼす恐れがあります。麦踏みを行う際は、麦の生育やほ場の状態を考慮して実施してください。

麦踏みの時期は離乳期（3～4 葉期）から茎立ち前（主稈長 2cm、幼穂長 2mm）までです。本県で推奨する回数は 2～3 回ですが、遅蒔きで生育量が不十分なほ場や、過湿気味（靴底に粘り気のある土が付着するような状態）のほ場では回数を少なくするようにしてください。

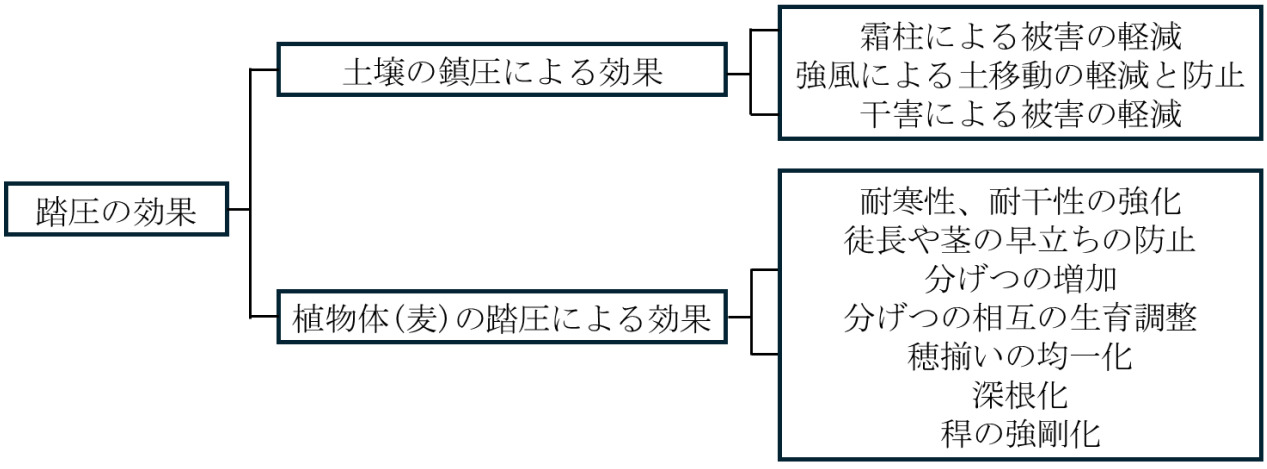



図4 麦踏み（踏圧）の効果 （みやぎの麦類・大豆栽培技術指導指針から引用）

## 7　雑草(カラスムギ)対策

連作ほ場を中心に難防除雑草であるカラスムギの発生がみられます。カラスムギは有効な対策を講じない場合、一年で急激に発生数が増加することがあります。そのため、昨年の発生が軽微だったほ場でも防除を徹底しましょう。

### (1) カラスムギについて

カラスムギはイネ科の一年生雑草で、生育期間が麦類と同じで効果的な除草剤が少ないため難防除雑草となっています。

生育初期の小麦・大麦との見分け方として、カラスムギには葉耳がなく、株を上から見たときに、小麦・大麦は葉が右回り(時計回り)にねじれるのに対し、カラスムギは左回り(反時計回り)にねじれるのが特徴です。条間や株間にカラスムギの発生がみられた場合は速やかに抜き取りましょう。

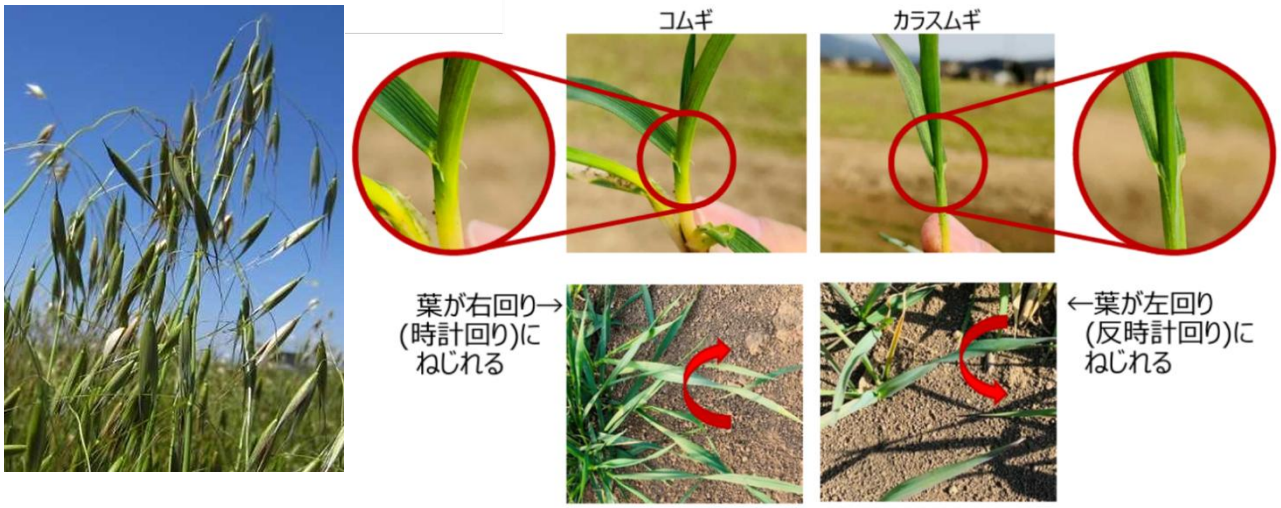



図5　カラスムギの見分け方(茨城県　麦類栽培ほ場におけるカラスムギ防除技術マニュアルから引用)

### (2) 除草剤散布

カラスムギは個体ごとの発芽時期のばらつきが大きく、長期間に渡って発芽するため、土壌処理剤を複数回散布し、除草剤の効果を継続させることが有効です。トリフルラリン乳剤や、フルフェナセット水和剤がカラスムギに対して効果が高いため、単剤で1回ずつ散布しましょう。散布時期は、カラスムギの出芽前～1葉期までを狙って、麦の播種後と出芽期に散布してください。例年、後発のカラスムギが多いほ場では、ほ場をよく観察して、雑草の出始めにトリフルラリン乳剤の2回目散布を検討してください。

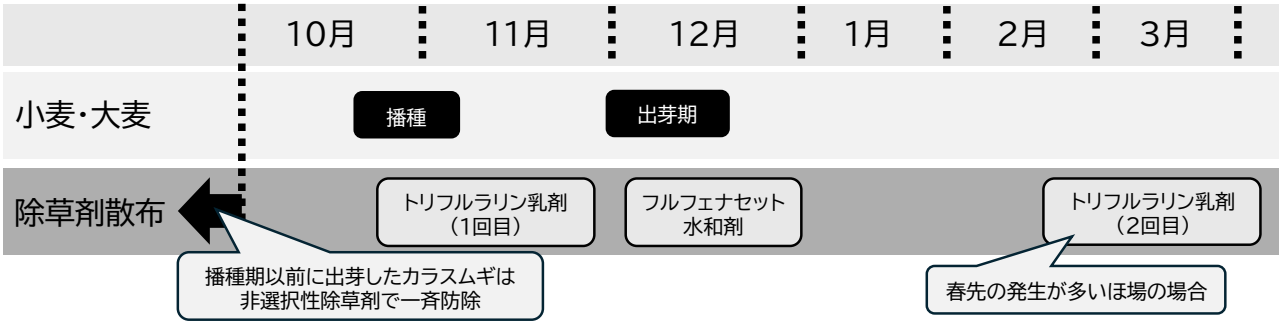



図6　除草剤散布スケジュールの一例
(茨城県　麦類栽培ほ場におけるカラスムギ防除技術マニュアルから作成)

表１「小麦」または「大麦」に登録のある、トリフルラリンまたはフルフェナセットを有効成分に含む主な除草剤

| 有効成分 | 農薬名称 | 適用作物 | 適用雑草 | 使用時期 | 使用方法 | 使用量 | 散布液量 | 本剤の使用回数 | 有効成分の総使用回数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| トリフルラリン | トレファノサイド乳剤 | 小麦<br>麦類（小麦を除く） | 一年生雑草（ﾂﾕｸｻ科、ｶﾔﾂﾘｸﾞｻ科、ｷｸ科、ｱﾌﾞﾗﾅ科を除く） | は種後出芽前～生育期（雑草発生前～雑草発生始期）但し、収穫45日前まで | 雑草茎葉散布又は全面土壌散布 | 200～300mL/10a | 100L/10a | 2回以内 | 2回以内 |
| ジフルフェニカン・トリフルラリン | ガレース乳剤 | 小麦<br>大麦（秋播栽培） | 一年生雑草 | 播種後出芽前（雑草発生前） | 全面土壌散布 | 200～250mL/10a | 100L/10a | 1回 | ジフルフェニカン：1回<br>トリフルラリン：2回以内 |
| ジフルフェニカン・フルフェナセット | リベレーターフロアブル | 小麦<br>大麦（秋播栽培） | 一年生雑草 | は種後～麦3葉期（雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで） | 雑草茎葉散布又は全面土壌散布 | 60～80mL/10a | 100L/10a | 1回 | 1回 |

※令和8年 10 月末時点の登録情報です。
農薬を使用する際は必ず最新の登録情報を確認し、ラベルに記載された項目をよく読んでから使用してください。

土壌処理剤は、地表面 1～2cm 程度に処理層を形成して、その範囲から出芽しようとする雑草が有効成分を吸収することで、防除効果が発揮されます。発生後の雑草には効果が低いため、発生前や発生初期に散布し、雑草が大きい場合は茎葉処理剤の散布を検討してください。

土壌処理剤の効果を高めるには、砕土率の確保と、ほ場が若干湿った状態で散布することが効果的です。土壌が極端に乾燥していると土壌処理剤の効果が劣るので、登録の範囲内で希釈水量を多くして散布してください。

また、気温が低く、雑草が目立たない場合でも、前作にカラスムギの発生がみられたほ場では必ず土壌処理剤を施用しましょう。

**（3）プラウ耕（深耕）**

カラスムギが出芽できない深さに種子を埋めて発生を抑えます。埋めた種子を巻き上げることのないよう、プラウ後の砕土はなるべく土を動かさないようにしてください。40cm の深さでは 1 年、5～15cm では 2 年半で種子が死滅するため、毎年プラウ耕を行う必要はありません。

**（4）休耕**

カラスムギが多発生しているほ場で発生数を減少させるには、麦作の休耕が必要です。12 月～3 月に 2 回耕耘し、6 月～11 月に月に 1 回程度、耕耘もしくは非選択性除草剤による除草管理を行うことで、来年以降の発生量を低下させることが可能です。カラスムギが種子をつける前に耕耘や除草剤散布を行うのがポイントです。

次回の麦作情報（第2号）の発行は2月中旬です。
内容は生育調査結果、追肥等についての掲載を予定しています。